

波止場

2007(平成19)年6月30日鑑賞<OS名画座>

★★★★★



監督＝エリア・カザン／出演＝マーロン・ブランド／エバ・マリー・セイント／リー・J・コップ／ロッド・スタイガー／カール・マルデン／パット・ヘニング（コロムビア映画会社配給／1954年アメリカ映画／108分）

……エリア・カザン監督は、1950年代初頭の「赤狩りの時代」における不名誉な「司法取引」のため「ハリウッド・テン」に入っていない巨匠だが、『波止場』（54年）と『エデンの東』（55年）は特に有名。また、『ゴッドファーザー』（72年）、『地獄の黙示録』（79年）で圧倒的な存在感を示したマーロン・ブランドが、30歳の時にアカデミー賞主演男優賞を受賞したのが、この『波止場』。そんな名監督、名俳優による社会派ドラマは見ごたえ十分。50年以上前のハリウッド映画の名作を、心ゆくまで味わうことができホントに幸せ……。



エリア・カザン監督と「ハリウッド・テン」

ジェームズ・ディーン主演の『エデンの東』（55年）は、私が中学生の時に3本立て55円の映画館で観た名作だが、その時はその監督がエリア・カザンだということは全然知らなかったし、その後も意識したことはなかった。しかし、2006年6月25日にはじめて実施されることになったキネマ旬報映画総合研究所主催の映画検定4級、3級を受けようと考えて、『映画検定 公式テキストブック』と『映画検定 公式問題集2級・3級・4級全300問』の勉強をした際覚えたのが、エリア・カザン監督の名前。

エリア・カザン監督は、『公式テキストブック』の第1章「見るべき映画100本」の中に『エデンの東』と『波止場』の2本が入っている巨匠。また1998年には、長年の功労がたたえられてアカデミー賞の名誉賞が贈られた。しかしこの時、1部の映画人からブーイングを浴び、受賞の瞬間拍手しなかったり、起立しなかった人たちが現

れるという異例の事態となったことは私も新聞を読んで知っている。

なぜそんなことになったのか……？ それはアメリカで1950年代初頭に吹き荒れた「赤狩り」に起因するもの。すなわち「赤狩りの時代」であった1952年、アメリカ下院非米活動委員会によって元共産党員であったエリア・カザン監督に嫌疑がかけられた時、彼は自らの嫌疑を否定するべく「司法取引」を行い、友人の映画監督、劇作家、俳優ら11名の名前を委員会に明らかにした。他方、アメリカには「赤狩りの時代」に迫害を受けたにもかかわらず信念を曲げなかった「ハリウッド・テン」と呼ばれた映画人たちがおり、赤狩りせん風が去った後、彼らは映画人からの尊敬を一身に浴びることになった。したがって、エリア・カザン監督が残念ながらその「ハリウッド・テン」に入っていないのは当然……。

したがって『映画検定 公式問題集2級・3級・4級全300問』における2級の第67問には「赤狩り時代に、非米活動委員会で証言を拒否して投獄された“ハリウッド・テン”。次の中から“ハリウッド・テン”ではない人を選びなさい」という何とも不名誉な問題が。その正解は、もちろんエリア・カザン……。

マーロン・ブランドもジェームズ・ディーンもアクターズ・スタジオ出身

2007年6月20日に発表された、「AFI アメリカ映画ベスト100」では、『市民ケーン』(41年)が第1位で、『ゴッドファーザー』(72年)が第2位だった。この『ゴッドファーザー』でイタリアマフィアのボスであるドン・ヴィット・コルレオーネ役を演じて圧倒的な存在感を示したのがマーロン・ブランド。彼は1924年生まれだから、この時50歳。『波止場』は1954年度のアカデミー賞作品賞、監督賞、主演男優賞、助演女優賞など8部門を受賞したが、その主演男優が当時30歳のマーロン・ブランド。

ちなみにマーロン・ブランドが演技を学んだのと同じアクターズ・スタジオで共に演技を学んだのが、エリア・カザン監督が『波止場』(54年)の翌年の『エデンの東』(55年)に起用したジェームズ・ディーン。したがって、『エデンの東』でデビューした後、『理由なき反抗』(55年)、『ジャイアンツ』(56年)の3作限り、24歳の若さで死亡してしまったジェームズ・ディーンがもし生きていれば……？

それはともかく、アメリカの大俳優は老後個性的な生き方をする人が多いが、マーロン・ブランドもその1人。すなわち『ゴッドファーザー』の大成功以降、彼は『地獄の黙示録』(79年)で再度何ともいえない存在感を見せつける一方、ネット情報に

よれば、「1967年にタヒチ諸島の環礁テティアロアを所有してからは、役者稼業を島の環境維持の資金稼ぎと割り切るようになり、1975年の『ミズーリ・ブレイク』からは少ない出番で莫大なギャラと収益の一部を得る事がブランドの出演条件となった」とのこと。そんな晩年については賛否両論あるだろうが、何とも個性的な一生を過ごした大俳優であることはたしか。そんな大俳優が30歳の時の作品を今はじめて観て、その時の若さと演技力にビックリ。こりゃ「和製ジェームズ・ディーン」と言われた日活の赤木圭一郎とは相当レベルが違うことを痛感……。

88万ドルで960万ドルを稼ぎだしたわけは……？

ネット情報によると、この映画の製作費はマーロン・ブランドのギャラ10万ドルとエリア・カザン監督のギャラ10万ドルを含めて、わずか88万ドルという低予算だったが、公開されるや批評家から絶賛され、製作費の10倍以上の960万ドルを稼ぎ出したとのこと。さてそれは一体なぜ……？ それは日本の野村芳太郎監督、新藤兼人監督、大島渚監督らの作品と同じように、この映画が持つ社会派ドラマとしての問題提起の正当性とアピール力のおかげ。

この映画はそのタイトルどおり、1950年代のニューヨーク港の波止場において船荷の運搬作業に従事する沖仲仕たちと、それを牛耳る港湾組合のボスたちの姿を描いたもの。火野葦平原作、石原裕次郎主演の映画『花と竜』（62年）は、日本の九州若松における沖仲仕たちの仕事とそれを牛耳るヤクザの姿を描いた面白いものだが、船荷の運搬作業をめぐる利権争いは日米共通であるうえ、それをヤクザが闇支配している姿も日米共通……？ そんな社会的問題点に大胆にメスを入れて、ドラマティックな構成にしたところがこの映画成功の第1の要因。そして第2の要因は、主演男優賞のマーロン・ブランドと助演女優賞のエバ・マリー・セイントをはじめとして港湾組合のボス、ジョニーを演ずるリー・J・コップやテリーの兄チャーリーを演ずるロッド・スタイガーそしてハリイ神父を演ずるカール・マルデンらの熱演。ハリウッドでは今から50年以上前にこんなしっかりした社会派ドラマがつけられていたのに、さて今は……？

紅一点、ジョー・ヴァン・フリート vs. エバ・マリー・セイント

『エデンの東』における紅一点はジョー・ヴァン・フリートだったが、『波止場』に

おける紅一点はエバ・マリー・セイント。1950年代のハリウッド映画はテーマがシンプルだし、登場人物も数人でそのキャラクターが明確だから、映画を観た後、鮮明な記憶として残ることが多い。もちろん他にも、それを観たのが思春期だからよけい記憶にきっちり刻み込まれるという面もあるのだが、中学・高校生の頃は、映画に登場する紅一点の女優は特に印象に残るもの。

『誰が為に鐘は鳴る』(43年)のイングリッド・バーグマンや『昼下りの情事』(57年)のオードリー・ヘップバーンなどは特にそうだが、助演女優クラスであっても『エデンの東』におけるジョー・ヴァン・フリートの印象は今でもはっきりと覚えているから不思議……。

しかし58歳となった今観た『波止場』におけるエバ・マリー・セイントは……？ 兄のジョーイが屋上から突き落とされて死亡したことを知り、猛然と抗議するジョーイの妹イディを熱演するエバ・マリー・セイントの姿をみているとその迫力に圧倒されるとともに、その後展開される港湾組合のボス、ジョニーの配下にいる、ボクサーくずれのチンピラ、テリー（マーロン・ブランド）との葛藤やそれが愛に移行していく演技は絶品！ 58歳になっても、こと女優を見る目に関しては、15、6歳の時の感性とほとんど変わっていないことを知ってひと安心……？

この映画の争点は一体ナニ……？

港湾組合のボスであるジョニーは、マフィアやヤクザではなく、形式上は合法的な港湾組合の委員長。そしてテリーの兄チャーリーは大学卒の法学士で、いわばジョニーの参謀として重要な役割を。その他、組合の副委員長、会計係、庶務係などの役職をもった「執行部」が港湾組合の運営を合法的に行っているわけで、イディの兄ジョーイが死亡したといっても、それはたまにある事故……。

というのは、ジョニーらの白々しい言い分にすぎず、調査委員会での証言を控えた前日に、ジョーイが謎の事故死を遂げたのは一体ナゼ……？ ニューヨーク港の波止場で中仲仕として働く労働者たちは千人以上いるのだが、誰1人ジョニーのボス支配に対して抗議の声をあげることができないのはその報復を恐れるため。要するに、長いものには巻かれるというコトなかれ主義によるものだった。

しかし、それではいつになっても問題は解決せず、ジョニーによるボス支配が続くもの。それに抗議し、調査委員会で証言しようとしたジョーイは死んでしまったから、

それによって抗議の声は抹殺されてしまうのだろうか……？ それがこの映画の争点。そしてそんな社会問題にメスを入れたこの映画がアカデミー賞8部門を受賞したのはその後の展開が面白い。しかして、そこで立ち上がったのがハリー神父。神父の立場で彼は一体どんな演説を……？

■ 西欧社会では神父がリーダーシップを

日本では平安時代の貴族社会、鎌倉幕府以降の武家社会を問わず、僧侶階級が知識人として、社会変革の面で大きな役割を果たしてきた。それと同じように西欧社会では、聖職者とその役割を果たしている。ハリウッド映画でも時々「タフな神父」が登場し、大きなリーダーシップを発揮するケースがある。それはたとえば、『ポセイドン・アドベンチャー』（72年）のスコット牧師をみれば明らか……。

1954年公開のこの『波止場』でも、ジョーイが殺されたことによってボス支配への抗議をあきらめかけていた労働者たちに檄を飛ばしたのは、ハリー神父。これは、かつて18世紀後半にドイツのマルクスが「共産党宣言」で「立て、万国の労働者！」と呼びかけたのと同じようなもの……？ それに呼応して、「ハリー神父がトコトン戦う」のなら俺も戦うと誓った沖仲仕がドーガン（パット・ヘニング）。しかし、その情報はいち早くジョニーたちに伝わり、またも証言の日を目前にして、ドーガンは転落してきたウイスキー箱の下敷きとなって非業の死を……。

変革のための戦いには犠牲はつきものであり、先人たちの屍を乗り越えていかなければ、と理屈ではわかっているものの、さて現場は……？ ドーガンの死体を前に決起を呼びかけるハリー神父のアジ演説は、十分な説得力と迫力をもっている。しかし、それに心を動かされ、実際に立ち上がろうとする者はいるのだろうか……？

■ テリーの立場は……？

テリーはジョニーのおかげでいい目をさせてもらっているうえ、兄のチャーリーがジョニーの側近だから、そのうち幹部への取り立ても……？ そんな軽い気持でジョニーの命ずるまま親友のジョーイを屋上に呼び出したのだが、まさかその直後にジョーイが転落死してしまうとは……？

テリーはバカではないから、客観的に自分がどういう立場にいるのかわかっており、ボスのジョニーのやることに文句をつけるつもりはない。しかし兄の死に猛然と抗議

するイディの姿に惹かれたのは事実のよう……？　そこで、その後イディを酒場に誘ったり、ダンスに誘ったりとそれなりにチョッカイを出してきたが……？

兄のチャーリーはボクサーあがりのテリーと違ってインテリだから、テリー以上に自分の立場とテリーの立場をよく理解していた。したがって、ジョニーからの命令を受けるまでもなく、イディとハリー神父の影響でちょっと進路を誤ろうとしている弟のテリーに対して嚴重注意をし、軌道修正をはかろうとしたが……？

今は悪い仲間に入り、その中でノホホンとぬるま湯につかっている、ホントは純真な感性が根元まで腐っていない若者は、不正を直視しそれに対する正しい戦いの方向性を理解できれば、いつか立ち上がるもの……。そんな話はキレイ事なのか、それとも不正と悪に染まりきったニューヨーク港の波止場で、何らかの事件が起きるのか、次第に興味津々に……。もし事件が起こるとすれば、それはあたかも『戦艦ポチョムキン』（25年）における兵士の反乱のようなもの。テリーがそんな戦いの先頭に立つことになればカッコいいし、今はテリーに見切りをつけているイディも惚れ直すはず……。しかしそうなるには、イディの兄ジョーイが犠牲になるだけでは足りず、テリーの兄チャーリーも……？

拳銃での報復……？ それとも法廷での証言……？

元プロボクサーだから、頭は単純で武闘派というのがテリーの持ち味……。したがって証言するかどうかについて迷っていた自分への説得が失敗したため、ジョニーの報復にあってしまった兄チャーリーの姿を見て、テリーが敢然とジョニーへの反旗をひるがえしたのは、ある意味当然……。そこでテリーが取った行動は、チャーリーから「いずれ必要になるだろう」と言われて預かっていた拳銃による復讐。それくらいのことしか思いつかないのは、彼の知的レベルからして仕方なし……？

しかし、1人拳銃を持ってジョニーのいる本部に乗り込んでも、それはある意味ジョニーの思うつぽで、「正当防衛」の名のもとに逆にテリーがやられてしまうだけ……。そう悟したのは、さすがあるべき戦略を構築することができる何事にもタフなハリー神父。彼が言う本当の勇氣とは、本当の戦いとは、法廷で真実を語ることだった。

さて、そんなハリー神父の説得に対して、テリーはどんな反応を……。そして、テリーが法廷でジョーイの死亡についての真実を語った時、ニューヨーク港の波止場には大きな変化があらわれるのだろうか……。 2007(平成19)年6月30日記